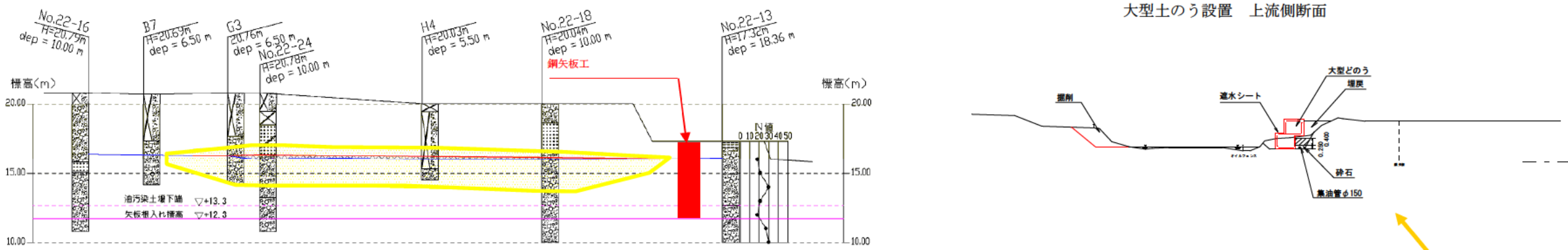


緊急対策工（鋼矢板等設置工事）

<p>目的</p>	<p>油分の河川表流水への滲出防止を目的とする。 油層は、地下水の動きに合わせて流動するため、地下水流向の下流側に遮水壁を設置し、河川への滲出を防ぐことで汚染の拡散を防止する。</p>
<p>対策工</p>	<p>掘削汚泥の排出量の少ない鋼矢板工とする。施工の際には矢板間の遮水性が保てるよう留意する。</p>
<p>施工時期</p>	<p>実施時期：平成 23 年 4 月 鋼矢板設置 L=132.6m D=5.5~8.5m（既設鋼矢板と合わせた総延長 約 180m） 油滲出箇所への大型土嚢設置 12m</p>
<p>施工深度</p>	<p>矢板の根入れ深度の決定にあたっては、1月（渇水期）に測定した油層の下端深度から1m以上余裕深さを確保するため5.5~8.5mの深度とした。 渇水期が最も地下水位が低いと考えられ、豊水期には地下水位が上昇すると考えられるため、渇水期の地下水位を基準にして鋼矢板の深度を決定すれば、下流側への油分の流出を防げるものと考えた。</p> 
<p>施工範囲</p>	